

平成 23 年 5 月

= 発行 =

秋田県生涯学習センター

〒010-0955 秋田市山王中島町 1-1

TEL : 018-865-1171

FAX : 018-824-1799

E-mail : sgscen002@mail2.pref.akita.jp

編集担当：社会教育アドバイザー

芽吹き的美しさを楽しませてくれた近隣の山々も、すっかり緑一色になりました。腰に籠をつけた山菜採りの人々が、藪の中に消えていきます。道の駅の店先に、種類豊富な秋田の山菜が並ぶのが楽しみです。

被災地のみなさんは、東日本大震災から2か月半、復興への願いを一段と強くしていることと思います。無念の涙を力に変えて、次へのステップを踏み込んでほしいと思います。『頑張れ東北、東北は一つ』です。「平泉」が、世界遺産登録候補地になり、東北地方に喜びの声が上がりました。うれしいことです。



美の国カレッジ総合開講式 平成23年5月21日(土)



武藤副学長あいさつ



小野寺元教育長の講演



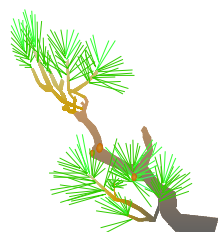
県民歌の斉唱

県生涯学習センター講堂において、『美の国カレッジ』の総合開講式が開催されました。開講式に先立ち奨励証の授与が行われされました。平成23年度の受証者は、修得単位数500のゴールド・マナビスト4名、300のシルバー・マナビスト5名、100のブロンズ・マナビスト4名でした。

開講記念講演の演題は、『教育に王道なし～学力全国一から見える、秋田の学び、地域の力～』で、講師は、元秋田県教育委員会教育長で秋田県総合教育センター名誉所長の小野寺清氏でした。秋田県教育の向上のために、強い信念の基に取り組まれた様々な施策について、具体的にお話がありました。

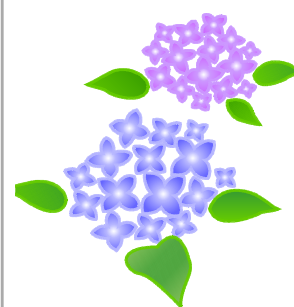
特別支援を必要とする子どもたちの教育を充実させるために「県立秋田きらり支援学校」開校の準備をしてきたこと、心の教育の充実のために「ふるさと教育」に力を入れたこと、少人数学習やT・T指導で子どもたちに「分かる授業」を推進してきたこと、「みんなの登校日」を実践して保護者や地域の人々を学校に招き、学校・家庭・地域の絆を強くしたこと等、長年に及ぶ秋田の教育について熱く語られました。

参加者より「話術も巧みだし、理論に裏付けられた話はいく理解できた」「あっという間の90分でした」「すばらしい講演だった」という感想が寄せられました。期待通りの開講記念講演になりました。



スカートの妻の踝夏に入る
田を植ゑて腕組む父の無言たり
真澄が「桃源郷」と称えた村
せせらぎや桃の花咲く手這坂

武藤 素魚



講座受講で、豊かな人生を！ 美の国カレッジ講座の紹介 グレアカ・健康・レクOB会 平成23年4月28日(木)

「グレアカ・健康・レクOB会」は、県生涯学習センターの講座受講者OBが結成したグループで、毎月2回、自主的な活動を展開しています。活動を始めてから10年以上になります。

積極的に研修に参加する会員は若々しく、平均年齢77歳とは思えません。学びは、若返りの秘訣かもしれません。

4月28日は、県生涯学習センター所長の講話の日で、参加者は文学の世界に吸い込まれていました。

<講話の概要>

「文学研究の一手法 ～漱石・落ち穂拾い～」

講師 県生涯学習センター 武藤四郎 所長



夏目漱石の青年時代を作品を中心に据えながら、複眼的な視点に立って調査・研究した内容が紹介され、グレアカ会員は、興味津々で時間を忘れて聴き入りました。講話の中に、漱石の年齢は、「明治の年+1」だから、「明治28年は、29歳、36年は、37歳」であるとか、明治28年、日本酒(上等)が21銭で現在が1900円だから9000倍になったことになるとか、漱石が松山中学校の辞令を受領したその日に友人の正岡子規が、近衛師団つき従軍記者として日清戦争の取材のため清国に渡ったことなど、時代背景や身近にいた人たちのことを含めて多数の資料や取材をダブルチェック、トリプルチェックしながら真実性を追究したお話で、文学研究の一手法としてのユニークさを感じさせられました。

「今の松山は『坊っちゃん人気』でいっぱいだが、小説『坊っちゃん』を発表当時、漱石に対する地元松山市民の反応は冷ややかだった。文中に『野蛮な所だ』とか『不浄な地』など書いているからではないか。友人の正岡子規が、漱石の下宿「愚陀仏庵」で54日間一緒に暮らした。漱石の愛媛県尋常中学校時代の俸給は月80円で、住田校長は、月60円だった。前任の外国人の給与がそのまま適用されたためである。漱石は、手紙を書くのも貰うのも好きだった。たくさんの書簡が残されている。」など、おもしろい話が次々と紹介されました。時代背景、漱石の生活の様子や人との関わりなどのそれぞれが意外性に富み、聞き手を飽きさせない内容でした。

講師の武藤所長は、調査・研究の心得として、「オリジナルな疑問・課題であるか、秋田との関わりを探る、年表の作成(全体像の把握、複眼的な年表、ふくらみや時代性を付加)、資料・史料の入手(取材:真実性のダブルチェック、トリプルチェック、足でかせぐ)、テーマを仮眠させる(結果をあせらない)など文学研究の一手法を語られました。講話が聞き手の心をとらえて放さないのは、研究のスケールの大きさと複眼的な追究の結果だと思いました。

「人権の花運動」ってご存知ですか？

法務省と全国人権擁護委員連合会は、人権意識の普及のために小学生を対象にして「人権の花運動」を実施しています。互いに協力して人権の花を育てることによって豊かな情操を育み、命の大切さや感謝の気持ち、他人に対する思いやりの心を育てることを目的にした運動です。

今年度秋田地区では、秋田市河辺にある戸島小学校を皮切りに、10校の小学校がこの活動をスタートさせます。運動に参加希望の学校には、花の苗やプランタ、土、肥料が提供されます。この活動は、秋田県全域で展開されます。

戸島小学校では、5月26日(木)、81名の全校児童が活動に参加し、人権集会のあと、花の苗を植えました。子どもたちは花を育てながら、自分自身の心を育てていくことなのでしょう。思いやりの心が育ち、「いじめ」のない学校が、秋田県全体に広がってくれることを希望します。

子どもたちの歌声の明るさと苗を植える真剣さが印象的な戸島小学校の子どもたちでした。

